

株式会社 安川電機 2019 年度 第 1 四半期 決算電話説明会 質疑応答 (サマリー)
(2019 年 7 月 11 日 (木))

【回答者】

代表取締役 専務執行役員 村上 周二
広報・IR 部長 林田 歩

(注記) :

モーションコントロール : モーションコントロールセグメント
AC サーボ : AC サーボ・コントローラ事業 (モーションコントロールセグメント)
インバータ : インバータ事業 (モーションコントロールセグメント)
ロボット : ロボットセグメント
システムエンジニアリング : システムエンジニアリングセグメント
その他 : その他セグメント

Q 今 1Q のモーションコントロールに占める AC サーボ売上の割合は ?

A 57%

Q 決算補足説明資料(P.24)の四半期受注のグラフについて、今 1Q の各事業の地域別増減率を教えてください。

A ・AC サーボ

国内 YoY▲40%、QoQ▲10%、米州 YoY▲37%、QoQ▲10%、
欧州 YoY▲22%、QoQ▲4%、中国 YoY▲28%、QoQ+81%、
その他アジア YoY▲51%、QoQ▲7%。

・インバータ

国内 YoY▲4%、QoQ+18%、米州 YoY+9%、QoQ+4%、
欧州 YoY▲16%、QoQ+5%、中国 YoY▲19%、QoQ+52%、
その他アジア YoY▲25%、QoQ▲3%。

・ロボット

国内 YoY▲9%、QoQ▲5%、米州 YoY▲38%、QoQ▲23%、
欧州 YoY▲20%、QoQ+12%、中国 YoY▲16%、QoQ+20%、
その他アジア YoY▲6%、QoQ+1%。

※YoY(year-on-year) = 前年同期比、QoQ(quarter-on-quarter) = 前四半期比

Q 足元の受注について解説してほしい。

A 中国は 3 月から一気に立ち上がった。国内は、電子部品関連をはじめ半導体関連の一部でお客さまの在庫調整が終わりつつあり、2 Q はプラスになる想定だ。欧米は、3 月までは良かったが、4 ~ 5 月に減速した。

Q 中国はボトムを打ったと言えるか？

A 例年、中国は2Q後半から減速する。今年も1Qが強くて、2Q後半からの減速は起こりうる。ただし、昨年度4Qに比べると、資金繰りが改善し、投資も戻ってきた。中国は4Qがボトムであり、1Qで戻ったと考えてよい。

Q ロボットの収益性が下がった要因は？

A YoYで売上減による利益減が▲12億円、付加価値の減が▲10億円であった。付加価値減には未実現損益▲7億円が含まれており、差し引きでは▲3億円であった。▲3億円の質の悪化の中身は、売上減による生産減に見合った製造間接費の削減が進まなかったことで▲8億円。一方、各拠点における原価低減や新製品効果が+5億円であった。

また、ロボットの経費が8億円増えた。昨年2Q以降、欧州・中国の拡販体制やi³-Mechatronics対応でグループ内のエンジニアリングリソース配分を見直し、ロボット事業として先行投資してきた。今期は経費コントロールしており、通期では期初見通し利益構造は確保できる。

Q 売上・営業利益・受注の年度計画に対する進捗は？

A モーションコントロールとロボットに関しては、受注が若干弱く、その分売上も弱い。2Qに向けては、モーションコントロールで中国が減速する可能性があるが、国内・欧米はボトムアウトを想定している。全体では2Qは1Qよりも良くなると思っている。ロボットは案件が積みあがっており、受注残もあることから、2Qは受注・売上とも立ち上がり、下期にかけて挽回する見方だ。

Q もととの計画に対し、どの程度の進捗か？

A 期初に売上計画に関して、上期48%、下期52%の割合と言っていたが、大きな変化はない。しかし、期待していた受注量に届かなかったため、生産減に加え在庫も抑制した。操業度悪化に見合った製造間接費の削減が遅れたことで利益面は未達となった。

Q 欧米が4～5月から減速した背景は？

A 欧米も中国関連のビジネスがあるため、昨年度3Q～4Qにかけての中国減速の影響が時期ずれで出てきている。同様に、日本は1Qがボトムで、顧客の在庫調整が終わったという話も出ているので2Qから立ち上がる想定だ。米国は特に半導体関連が戻っていない。

Q 中国の足元の状況は？

A 中国は、5月までは先行きが明るかった。しかし、GW明けに米中貿易摩擦が激化し、5月後半からは投資マインドに影響が出始め、発注を躊躇する動きになっている。ロボットに関しては、自動化のニーズは常にあるため、案件は出てきているものの、実受注が後ろ倒しになっている。お客さまの意思決定が遅れているようだ。投資意欲がなくなったわけではなく、きっかけを待っている状況だ。貿易摩擦の行方がはっきりすれば、止めていた案件が動き出すだろう。

Q 中国のインバータ受注が QoQ+52%の要因は？

A 昨年度の4Qは春節影響で落ち込んだため、この反動が一部ある。また、政策によってインフラ関係が堅調であり、環境対応の投資もある。

Q 市場動向がリンクしていると思われる機械受注などの統計は芳しくないが、ロボットの2Q受注は改善するか？

A 受注に関する明言は難しいが、案件はたまってきている。2Qに受注が確定するものも多くある。

Q 通期のロボットの経費増見込みが9億円だったのに対し、1Qだけでロボットの経費が8億円増えているが、計画以上に増加するのでは？

A 他のセグメントとのリソースの入れ繰りもあり、全社では経費を抑えている。今の計画での受注量が改善すると、操業度・付加価値改善が見込め、製造間接費を抑えることで、従来の採算性は確保できる。

Q モーションコントロールの在庫について昨年度4Qから1Qの動きはどうだったか？見通しはどうか？

A 4Qから1Qにかけて、トータルで▲30億円弱の在庫削減となった。2Qは受注次第で、必要に応じて在庫を元の水準に戻すことになる。

Q 下期以降に期待できる需要のけん引役は？逆に動きが遅れているものは？

A 下期の見方は難しく、今のところははっきりと見えていない。半導体の在庫調整がどこまで進むかなども注視が必要だ。ただ、来年は5Gの本格導入が見込まれており、5G対応スマートフォンのスペックの決定が、今年度下期と言われている。また、半導体も足元では在庫調整が進みつつあり、装置関係も当社への発注も動き出していることから、下期に巡航速度に戻ることを期待している。

Q ACサーボ、インバータ、ロボットの生産稼働率の現状は？

A 基本的には3ヶ月前から変わっていない。全体的には80%程度。ACサーボ全体としては、80%で、うち瀋陽は100%。インバータが100%、ロボットは70%程度だ。

Q 外部環境が不透明な中で、2Qの受注が想定より弱い場合、稼働を落とす準備ができていますか？

A 受注が立ち上がらなければ、在庫を積むことはしないが、製造間接費の削減を考える必要がある。受注が入れば在庫を積む方向に動く。両方にらんで対応できるようにしておく。

Q ロボットの案件がたまっているということだが、具体的な地域・アプリケーションは？

A ほぼ全地域だ。中国では、3C業界においては一定の生産ボリュームがあり、自動化投資へのニーズは変わっていない。資金もある程度つき始めたことから、案件として見えてきている。3C以外には、EVの加工部品の自動化投資や太陽光関係の投資などがあり、一部既に受注につながっている。他の地域でも自動車関係の案件はあるが、お客さまごとに固有の理由でタイミングを図っている状況だ。

Q 足元で客先工場の生産水準が改善傾向にあるとのことだが、今後はどこかのタイミングで需要が急増する可能性はあるのか？

A 需要が立ち上がる時は一気に増えることが多い。ここしばらくの間は設備投資が抑制された状態が続いているので、不透明な経済状況が改善されるなど何かのきっかけがあれば、需要は急増する可能性がある。

Q 昨年度 Q4 から今 Q1 におけるロボットの在庫推移は？また、稼働率を算出する際の生産能力の定義は？

A 同水準横ばいで推移している。例年、多くの場合は 1 Q に在庫を積み増して 2 Q にそれを放出するパターンが多いが、今 1 Q はそこまで受注が強くないので、積み増す状況ではない。なお、生産能力は、いわゆる 1 直体制での生産可能な台数と定義している。

Q 中国の需要が 2 Q に伸び悩む可能性があるとのことだが、具体的にどういう状況か？

A 今後、中国にどこまで調整が入るか注視する必要がある。先述の通り、例年中国の需要は 1 Q にピークを迎えた後下がる傾向にあるが、今年は 1 Q での需要がそこまで増えなかったため、その分 2 Q での落ち込み幅も限定的とみている。さらに、中国では 1 Q に、自動車に関する奨励策などの金融緩和の効果が出てきた。こういった経済効果が継続すれば、16 年～17 年のときのように下期以降に需要が立ち上がる可能性もある。

Q 米中貿易摩擦の影響で、顧客の生産機能を中国から他の地域に移す動きはあるか？

A インドやベトナムなどアジアへのシフトの話題は聞こえてくるが、生産設備を発注する具体的な案件はまだない。まずは、中国国内で自動化投資を進め、生産を継続するのではないかとみている。

Q 今年度の通期見通しにおける 1 Q の進捗をみると弱いように感じるが主因はなにか？

A 確かに 1 Q 進捗は若干厳しい結果となった。売上高の落ちはモーションコントロール、ロボットとも若干の落ちだったが、ロボットで引き合い案件から実受注になることが、想定に対して遅れたこともあり、操業度の悪化で、利益面で未達となり、下期に積み残す形になった。

Q 期初計画ではロボットの需要はそこまで落ちないと聞いていたが、思ったより落ちたのでは？

A 受注は弱いですが、受注残があるため、2 Q の見通しにおいての売上高は確保できるとみている。

Q 6 月 6 日に発表した中計には 1 Q 業績の内容を織り込んでいたのか？

A 織り込んだ上で発表した。

以上